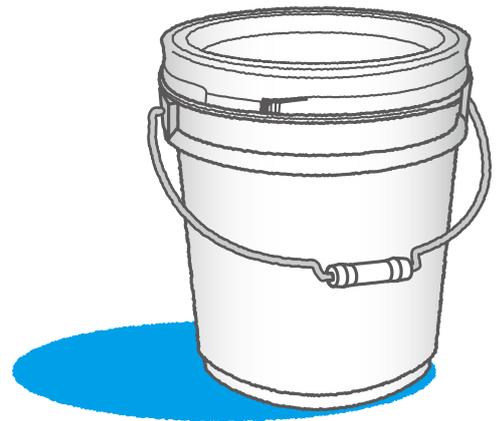


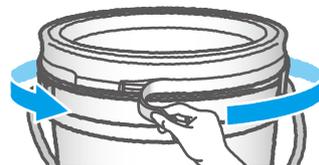
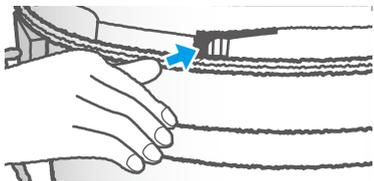
ローラーで塗れる健康壁 テングートツプ けいそう

ビニルクロス(壁紙)下地用

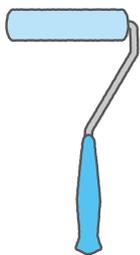
このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この説明書をよくお読みいただき、記載内容に従って、正しく安全にお取り扱ってください。



ふたの開け方

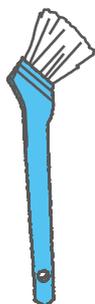


ご用意ください



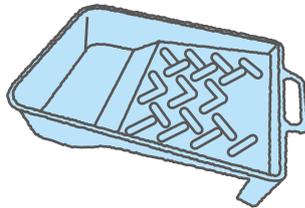
ウールローラー

塗材を塗り付ける
メインの道具です。



ハケ

ローラーでは塗りに
にくい狭い場所、
入り組んだ場所な
どに使います。



受け皿

塗材を入れるための道具です。



カットマスキナー

床の養生などに使うビ
ニルシートとテープ
が一体化した養生道
具です。



マスキングテープ

細かな箇所を養生する
ときに使うテープです。
(巾30mm以上)



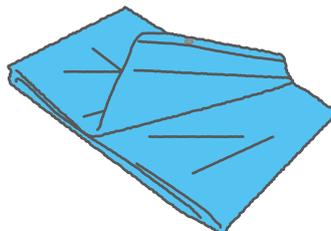
かき混ぜ棒

受け皿に移す前に
良くかき混ぜるた
めに使います。
(60cm程度)



お玉

受け皿に移し
替えるときに
使います。



養生シートまたは 新聞紙

カットマスキナーでカバーしきれ
ない範囲の床を養生します。



タオル

下地のビニルクロスを掃除する
ときに使います。



ゴミ袋

使用後にだたごみを入れます。



脚立

高いところを塗るときに
使います。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことを必ずお守りください。

警告表示の種類と内容



注意

取扱を誤った場合、けがや物的損害が発生するおそれがある内容です。

安全上のご注意



注意



必ず 実行

【安全について】

- 子供の手が届かないところに保存し、誤飲、誤食をしないように注意してください。
- 作業中は目、皮膚への接触を防止するため、状況に応じて保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を着用してください。
- 目に入った場合には、多量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、多量の石けん水でよく洗い流し、痛みまたは異常があるときは医師の診断を受けてください。
- 施工時にボンド臭がある場合には、換気をおこなってください。
- 作業後は手洗い、うがいをしてください。汚れた作業服は洗濯してください。
- 廃棄は法令に従って処理してください。

【塗装を始める前に】

- 本品は内装専用の仕上材です。それ以外の場所には施工できません。
- 風呂場および直接雨のあたる外部への施工は避けてください。
- 使用するときは、容器のふたに手を添えて開け、塗材を底から十分にかきまぜてください。
- 水の入れ過ぎや2mm以上の厚塗りは、塗膜のダレやひび割れの原因となりますのでご注意ください。
- 施工前には試し塗りをし、色や模様のパターンの確認を行ってください。
- 塗装直後と乾燥後で塗材の色は異なります。乾燥後に本来の色になります。
- 汚れても構わない作業着で作業し、保護眼鏡や手袋を着用してください。
- 周辺の家具やチリ廻り（柱と壁の境界）など塗材が付着してほしくない箇所は、マスキングテープやカットマスク等で養生してください。

【下地について】

- 塗り面のゴミ、油分、カビ等は予め取り除いてください。
- ゴミや油分は、濡れタオルと中性洗剤を用いて取り除きます。カビは市販のカビ取り剤で取り除き、濡れタオルで十分に拭き取ります。その後、十分に乾燥させてください。
- 釘などで錆の恐れがある場所には、市販の錆止め剤で錆止めを施してください。
- ビニルクロス下地の場合、剥がさずに施工ができます。予め固くしぼった濡れタオルで拭き、下地の確認と掃除を行ってください。また、剥がれや膨れがないか確認をしてください。チリや継ぎ目の剥がれが見られる場合はビニルクロス補修用ボンド（市販品）で接着させます。
- アクシミ止め対策として、予め「ジュラックスシーラーB」（別売）を塗布してください。
- 凹凸が大きいビニルクロスに施工する場合は、下塗が2回必要となる場合があります。
- 布クロスや紙クロス、汚染防止クロス等の撥水性クロスには施工できません。

【塗装条件・乾燥条件について】

- 気温5℃以下、湿度85%以上での施工は避けてください。また施工後、気温0℃以下になる恐れがある場合は施工を避けてください。気温が低い場合や湿度の高い日に施工すると、なかなか乾かない場合があります。塗装はできるだけ天気の良い日を選んでください。
- 乾燥時間は一昼夜（24時間）を目安としますが、気象条件、塗り厚によっては、それ以上の期間を要することがあります。

【塗装後の注意】

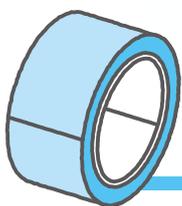
- 塗装後は十分な換気を行い、早期の乾燥を心がけてください。換気が不十分な場合、乾燥しにくくなったり、臭いがこもったりすることがあります。
- マスキングテープやカットマスク等は塗材が完全に乾く前に、ゆっくりと剥がしてください。剥がれにくい場合、カッターナイフでテープ際を切りながら剥がしてください。
- 作業中、誤ってチリ廻りやアルミサッシに塗材を付着させた場合には早めに濡れタオルでふき取ってください。
- 使用したローラーやハケなどの道具は、乾かないうちに新聞紙等でできるだけ塗材を拭き取り、その後、水洗いしてください。また、残った材料を廃水として流すと、パイプ等が詰まる可能性があります。新聞紙等に塗り広げて、不燃物として廃棄してください。

【保管条件・使用期限】

- 直射日光の当たる場所、湿気の高い場所、高温（40℃以上）、低温（0℃以下）での保管は避けてください。
- 使用期限は製造年月日から1年間です。
- 開封後はその日のうちに使いきってください。保存する場合は、直射日光や-5℃以下の場所を避けて塗材の表面にビニールを張り、空気との接触を防ぎ、しっかりフタを閉めて保管してください。

【塗装面について】

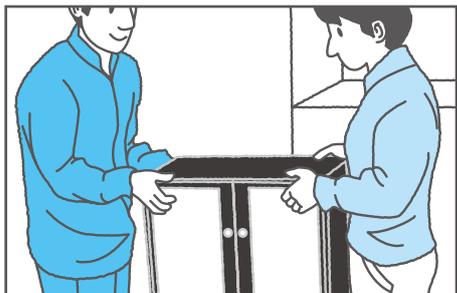
- 壁面に強く触れると肌を傷つけることがありますので、ご注意ください。
- 天然の土を使用していますので、ロットにより多少の色違いを生じることがあります。
- 天然の色土や顔料を使用していますので、わずかに退色することがあります。
- 壁面が水に濡れると、変色や剥離の恐れがあります。
- 壁面は結露を繰り返すことにより、カビが発生したり、剥離することがありますので、換気を行ってください。
- 柱の乾燥収縮などで、チリ切れを起こすことがあります。
- (継ぎ目部分など) ビニルクロスの接着が不十分な場合、塗材が浮くことがあります。
- 地震や空調設備などによって地下に振動が生じると、壁面にチリ切れやクラックを起こすことがあります。



準備する

1 塗装スペースを確保する

- 家具など塗装の妨げになるものは塗材が付かないように全て別の場所に移動させます。移動できない場合は、塗装スペースを確保するために壁から1m以上離し、塗材がつかないように養生してください。



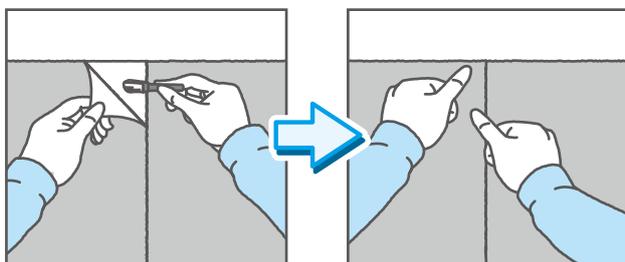
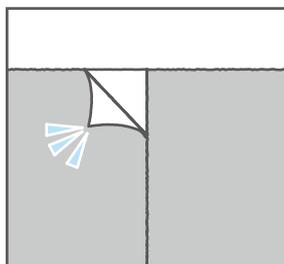
2 ビニルクロス(壁紙)下地の POINT チェックと清掃をする

- ビニルクロス下地の場合、剥がさずに施工ができます。予め固くしぼった濡れタオルで拭き、ビニルクロス下地の確認と掃除をしてください。
※布クロスや紙クロス、汚染防止クロス等の撥水性クロスには施工できません。



- ビニルクロスに剥がれや膨れがないか確認してください。

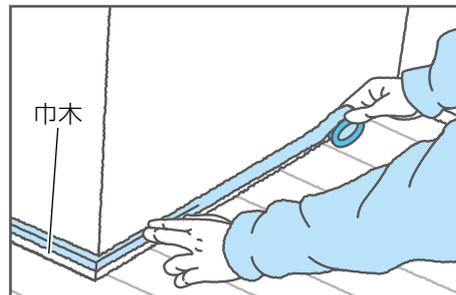
- チリ(柱と壁の境界)や継ぎ目の剥がれが見られる場合や膨れが見られるときは切込みを入れて、ビニルクロス補修用ボンド(市販品)で接着させます。なお、接着後は必ず乾燥させてください。



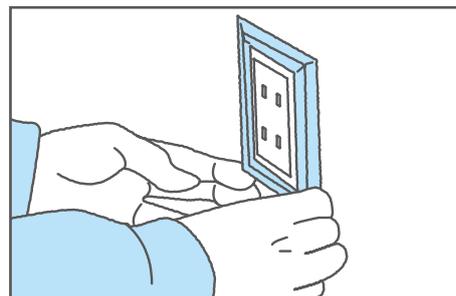
3 覆う(養生する) POINT

塗装する際「養生8割、塗装2割」といわれる程大事な工程です。

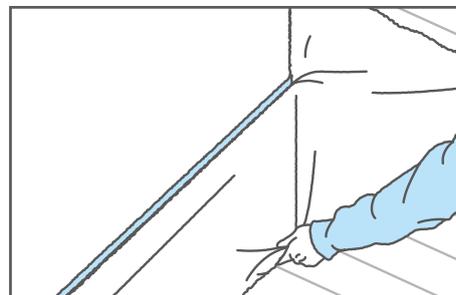
- 塗る面の周り(チリ廻りや巾木など)で塗材が付着してほしくない箇所は、マスキングテープで養生します。マスキングテープの接着を良くするため、あらかじめ濡れタオルなどでホコリを除いてください。マスキングテープは壁面から1.5~2mm程度(塗材の厚み分)隙間をあけて貼るのがポイントです。



- コンセントは、周辺を囲むように養生します。



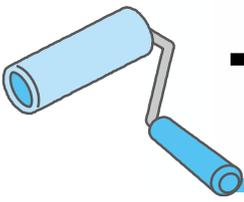
- マスキングテープを貼った上から、さらに床の汚れ防止のため、カットマスキャー(マスキング付きビニールシート)を壁と床の境界に貼り、ビニールシートを広げます。また、ビニールシートが届かないところは養生シートや新聞紙でカバーしてください。



4 服装について

- 塗装する際は、フード付きの使い捨てレインコートを着るなど、汚れても差し支えがない服装で作業してください。塗装作業をしている間は、思いもよらず塗材等が飛び散り、汚れる場合があります。





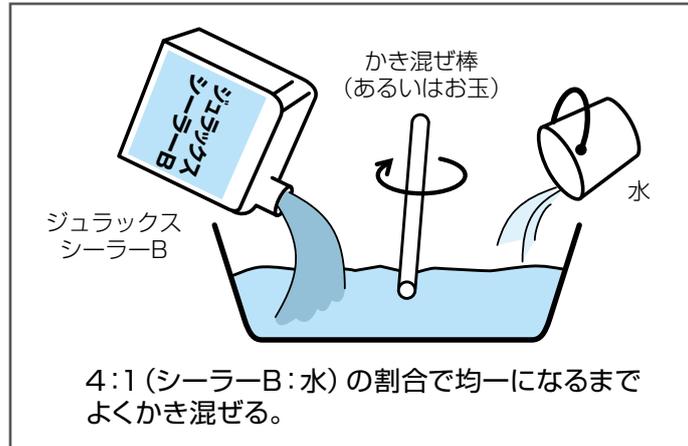
下地処理する (ジュラックスシーラーB)

【事前処理】 下地処理として「ジュラックスシーラーB」(別売)をウールローラーで全面に塗布する。

- 古壁 (既存ビニルクロス) のアクシミ止め対策として塗布します。
- 新設時等でビニルクロスの状態が綺麗な場合には塗布する必要はありません。

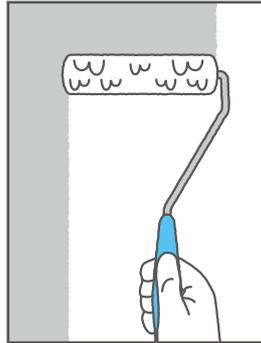
1 材料を調合する

- ジュラックスシーラーBと水道水を4:1 (シーラーB:水) の割合で薄め、よくかき混ぜます。



2 材料を塗布する。(2回塗り)

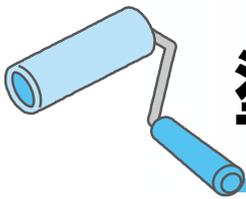
- 刷毛またはウールローラーで縦、横に、ていねいに塗り付けてください。塗付け量の目安は1回目は70g/㎡、2回目は40g/㎡です。



これで下地処理の作業が完了です。

ジュラックスシーラーBが完全に乾燥するまで、壁面を触らないでください。
乾燥時間は1~2時間 (20℃の場合) を目安とします。
(乾燥条件により異なります。)

※「ジュラックスシーラーB」に関するより詳細な情報は製品ラベルをご確認ください。

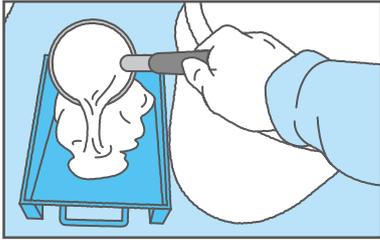


塗装する (テンダートップけいそう)

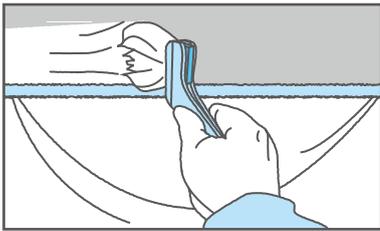
1 缶を開け、かき混ぜ棒などを使って塗材を十分にかき混ぜる

- 塗材の粘度が高く塗りにくい場合は、水で少し薄めてください。(水は1缶に対して200ccまでを目安に少しずつ加えてください。水を入れすぎると塗膜がダレますので、ご注意ください。)

2 必要な量の塗材を受け皿へ移す

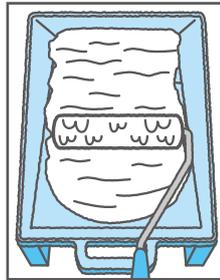


3 ハケを使って、狭い場所(コンセント周りなど)や入り組んだ場所などを塗る



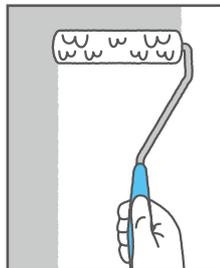
4 ウールローラーに塗材を十分につける

- 受け皿上でローラーを転がして塗材の量を調整してください。
- ローラーハンドルに塗材が付かないように注意してください。



5 壁面全体をウールローラーで下塗りする(1回目)

- 壁面に塗り付けるときは、ローラーをゆっくり転がしてください。(早く動かすと塗材が飛び散ります。)
- 一般の塗材に比べて粘りがあるため、下地に対してローラーを押し付けるように塗り広げてください。



POINT

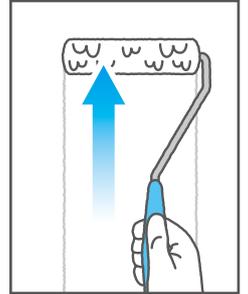
- 1回目を塗った時点でビニルクロスが少し透けたように見えても2回目の塗りでも美しく仕上がります。
- ※凹凸面の大きいビニルクロスに施工する場合は、5の直後にヘラなどを用いて、全体に塗材をならしてください。
- 凹凸をなくすことで 7 の仕上げ塗りがスムーズに行え、美しく仕上がります。

6 1回目塗りが終わったら、しばらく乾燥させる(塗装間隔の目安:夏期2時間、冬期4時間)

- 1回目の作業後には、必ずウールローラーを水洗いしてください。そのまま放置すると、ローラーの表面が塗材で固まり、2回目の作業で使用しにくくなります。

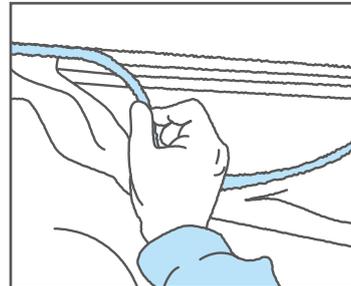
7 仕上げ塗りをする(2回目)

- 1回目と2回目で合計塗り厚1.0mmが目安です。
- 1回目と同様に均一に塗材を塗り広げてください。仕上げはローラーを下から上へ転がしてください。



8 養生を取り除く **POINT**

- 塗材が完全に乾く前に、塗材のはがれに注意しながら、マスキングテープ、カットマスキングテープをはがします。



完全に乾燥した後はテープがはがれなくなることがあります。

9 後片づけをする

- 養生シートや新聞紙など、全て片付けます。
- 塗装道具は乾かないうちに新聞紙などで、できるだけ塗材をふきとり、水でよく洗い、陰干しします。

これで全ての作業が完了です。

塗り付けた塗材が完全に乾燥するまで、壁面を触らないでください。
乾燥時間は24時間を目安とします。
(乾燥条件により異なります。)

四国化成建材株式会社

本社：〒763-8504 香川県丸亀市土器町東8-537-1

お施主さまの商品へのお問い合わせは

受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日・年末年始・夏期休暇を除く)

お客さま相談室 ☎0120(212)459

インターネットからは <https://kenzai.shikoku.co.jp/customer>
資料請求、お見積りについては、最寄りの営業所にお問い合わせください。